

平成 18 年度 第 1 回 新交通システム導入課題検討委員会 議事録

日 時：平成 18 年 5 月 30 日（火）15：00～

場 所：栃木県総合文化センター 3 階 特別会議室

出席者：委員 24 名中 21 名 ほか

開 会

栃木県企画部長あいさつ

- ・これまで課題の整理検討を進めてきたが、引き続き検討すべき課題も多く残されていることから、今年度はそれぞれの課題を具体的に深く掘り下げ、議論を進めていく。
- ・L R T 導入推進室を設置した宇都宮市と共に、課題解決に向けて取り組んで参る。
- ・本日の委員会は、今年度の検討の進め方等について活発な議論をお願いしたい。

藤本委員長

- ・今日は 4 つの議題を用意している。
- ・1 つめは、平成 17 年度の成果について、おさらいを兼ねて事務局から説明がある。
- ・2 つめは、本委員会の課題解決に向けた取り組みの方針について、皆さんの意見を頂きたい。
- ・3 つめは、課題検討の具体的な進め方について。
- ・4 つめは、その他です。
- ・議題（1）「平成 17 年度の成果について」、事務局から説明願う。

事務局（栃木県交通対策課・栗山課長）

【資料 1 - 1 「新交通システム導入課題の検討結果報告書（平成 18 年 3 月）」および
資料 1 - 2 「新交通システム導入課題の検討結果報告書（平成 18 年 3 月）の概要」説明】

藤本委員長

- ・御意見・御感想等無いようですので、議題 2 へ。
- ・議題 2 「課題検討委員会の検討方針について」は、次の議題 3 「課題検討の具体的な進め方について」と内容的に関連するので、議題 2 と 3 を一括で説明した後に、皆様からの御意見等を受けたいがどうか。
- ・それでは異論なければ、事務局から説明願う。

事務局（宇都宮市 L R T 導入推進室・宇梶室長）

【資料 2 「平成 18 年度の検討方針について」および
資料 3 「課題検討委員会の具体的な進め方について」説明】

石井委員 [補足説明]

- ・採算性の問題については、県民市民からよく質問がある。
- ・平成 18 年度に詳細な検討を行うとしているが、そのためには前提条件を決めて、運営形態のあり方とか、導入区間、運賃設定等をシミュレーションを行い検討していきたい。
- ・公共プロジェクトに対する世間の目が厳しい状況にあることから、出来る限り負担のない、持続可能な社会を形成するためにも、最小の費用で最大の効果が得られるという観点が必要。
- ・そこで委員会では、これらのシミュレーションを行う上での前提条件をご承認いただければと思う。
- ・平成 13、14 年度の基本計画策定調査や宇都宮市が一昨年実施した調査の時点とは、建設費や運営費、ランニングコストなど相当変わっている

- ・さらに色々な技術革新が進んでいるので、それらを考慮しながら検討し、一体いくら掛かるのか、また「赤字」という問題に対してどこまできちんと説明できるかが、本委員会の平成 18 年度の課題だと認識している。
- ・委員の皆様から御意見をいただきながら、全力で取り組んでいきたい。
- ・今回、作業部会に参加する樋口助教授は、私と同じ分野を長年携わっている。
- ・計量モデル、地域モデル、経済計算などが得意分野であるので、共に分析をしていきたい。

古池委員 [補足説明]

- ・これまでの新交通の検討においては、必ずしもそのつもりは無かったとしても、L R T ありきという視点で受け取られていたような感じがあった。
- ・そういう点で、今年の課題としてまちづくりの視点を表に出したのは、非常に重要な事。
- ・よく、まちづくりが先か L R T が先かという、鶏と卵の議論に似た話があるが、車の両輪の様な考えで進めていくべき。
- ・将来、L R T を使う事によって、どんなまちができるのかというところまで踏み込んでいきたい。
- ・全体区間は 15km だが、それぞれの地域によって性格も相当違うし、L R T をどのように導入するかとか、導入の影響も、場所によって大きく違うと思うので、その事を利用する方々や市民全体にわかりやすく説明する必要がある。
- ・昨年度、中心市街地や東部地域、交通事業者の皆様方と何度も意見交換したが、その課程でクリアになった様々な課題を、解決し、きちんとした答えを出す事は、今回の一番大きな課題。
- ・総合的な交通施策については、大きくソフトとハードの 2 つに分けられるのでは。
- ・ハードについては、トランジットや乗り換えの結節点、個々の停留所の位置については、例えばフィーダーバスのネットワークとの関連性や、パーク & ライド、サイクル & ライド等色々な考え方が出来るのでは。
- ・ただ L R T を造るのではなく、まちそのものの構造を変えていく、T O D あるいはコンパクトシティと言うような事も含めて検討していく必要がある。
- ・ソフト的な問題としては、運賃の他にも、収受方法だとか乗り継ぎ料金制度、割引にするか全線均一料金にするのかゾーン運賃にするのか等色々な方策が考えられるので、色々なシミュレーションあるいはシナリオに沿って検討していきたい。
- ・宇都宮大学の森本助教授は、特に交通とまちづくりの関係で、県市の委員会において積極的に活動しており、ケーススタディに対するシミュレーションを得意分野にしている。
- ・我々 4 人を中心に関係者の皆様方と作業部会を進めていきたい。

藤本委員長

- ・今の説明に対して、委員の皆様から御意見を頂きたい。

青木委員

- ・今年度の検討作業は、具体的にどの様に進めるのか。
- ・昨年一年間やった事と、今年度の作業の違いを、わかりやすく一般の県民市民に説明した方がよい。
- ・私の理解では、L R T 導入の課題を大きく 4 つのグループに整理したのが去年の作業。
- ・それらの課題を更に深く検討するのが今年度の作業。
- ・もう一つの疑問は、今年度は課題の解決策まで整理して出すのか、それとも検討はするが解決策までは至らないという形にするのか。

事務局 (宇梶室長)

- ・昨年度、導入にあったって検討すべき課題が明確にされたが、今年度は L R T が導入された場合の将来のまちづくりを具体的に描く事によって、今後の対応の方向性が見えてくると思う。

- ・トランジットセンターとか電停、車庫、車線の使い方、都心環状道路等関連道路の整備を含めた具体的な図面等を描きながら、答えを出していきたい。

事務局（栗山課長）

- ・今までどちらかという議論の中身が見えてなかったが、その辺を明らかにしていきたい。

古池委員

- ・私的には、解決策を出さない事には、課題をいくら検討してもしょうがないと思う。
- ・検討で終わるのでは意味がないので、解決策を出す事がこの委員会の本来の目的。

石井委員

- ・その通りだと思う。市民県民に赤字だというイメージが非常に蔓延しており、県も市も今まで答えを出せなかった。
- ・基本調査の需要予測は過大だと言われており、一般の方々はそれを信じているので、実態は違う事をシミュレーションをして説明したい。
- ・本委員会からご指示頂ければ、15km 区間をベースにして、3ないし5つのパターンでやっていきたい。
- ・県や市の負担金の割合、あるいは路線延長された場合の周辺の市町村はどうするのかとか、宇都宮駅東口の再開発事業、宇都宮駅東西を抜く工事費、また東西両側のトランジットセンターや停留所などを含めて、大雑把なシミュレーションになると思うが、やらないと全体のコストがわからない。
- ・採算性については、いくつかの運賃パターンを設定し、収入と支出のバランスで考える必要がある。
- ・ランニングコストが仮に赤字だった場合、公共の補填がどこまで許容されるかを、他の自治体の事例等を踏まえて、検討していく。
- ・シミュレーションのパターンのマトリックスで考えると、20通りぐらいできてしまうが、時間の関係もあるので、出来れば3通りぐらいでやりたい。
- ・これが出来れば、当面の平成18年度の課題解決のための作業はここまで出来たと説明できる。

藤本委員長

- ・全ての課題をこの一年で解決するのは無理だと思うが、その辺りも皆さん考えて頂きたい

須賀委員

- ・採算性については昨年度の作業で、インフラ整備をどこまで行政が持てば、事業主体の採算性が保てるかという試算をしたが、この事業は県民市民に対して、かなり大きな経済波及効果があると思う。
- ・渋滞解消によりエネルギーあるいは時間のロスが無くなるとか、モビリティが確保される事により中心市街地が活性化し、その経済波及効果により税収増につながると思うので、より広い大きなそろばんの上で事業の採算性を考えていくことも一つの考え方。
- ・事業主体の採算性だけではなく、幅広い経済波及効果を検討して願いたい。

新井委員

- ・事業運営手法が一番の問題であり、波及効果を含めて検討していく必要がある。
- ・昨年度の検討にありました上下分離方式や新しい補助制度を考慮して、森本先生と樋口先生に御手伝い願えば、かなり具体的な試算が出来るのでは。
- ・一番心配しているのがタイムテーブルであり、何をするにもタイムテーブルが基準になる。
- ・森本先生と樋口先生は委員にはならないのか。

古池委員

- ・事務局としては2人に作業部会に入って頂くということですが、もし委員の皆さんの了承が得られるならば、委員会にも出席頂いた方が、皆さんの意見を作業に反映できるのではないかと。

藤本委員長

- ・わかりました。事務局と相談させて頂く。
- ・今年度の作業部会の運営に当たっては、石井、古池両委員を中心に、関係する委員の方々や、樋口先生、森本先生に参加頂いて、具体的な作業に取り組んで頂く。
- ・議題4「その他」ですが、本日は今年度第1回目の委員会であるので、委員の皆さんから一言ずつ感想等でもあれば御意見頂きたい。
- ・時間の関係上、本日まだ発言されていない方を中心にお願ひしたい。

飯箸委員

- ・何年後にやるかによって、人口や年齢構成とか物価等も変わる。将来もしかしたら道州制が導入され宇都宮市が首都になるかもしれない。
- ・そのような事も考えながら、やはり何時を目処にやろうとするかが大切。

佐藤交通規制課長（上原委員代理）

- ・L R Tのパンフレット案に写真が載っている柳田大橋の渋滞については、現在かなり解消されている。

臼井委員

- ・昨年、ワーキンググループで市民との連携について検討してきたが、この報告書を見て、改めて市民県民への理解促進策が必要だと思った。
- ・このパンフレット案はL R Tの基本的なところを知って頂くという目的があるのだと思うが、あまりに教科書的で、インパクトが弱い。
- ・説明のための教科書的なパンフレットが第1弾だとすると、第2弾、第3弾は、議論の素材となるようなインパクトのあるものも必要。
- ・具体的なわかりやすい図面が出ると、県民市民は興味を示すと思うので、議論が進むし、色々な人達からアイデアや意見をいただけるのでは。
- ・実際の利用を考えた場合、こうあって欲しいとか、こうだったら利用するという意見を、色々な年代の方々から頂けるようにすることが、理解を進める一つの大きなポイント。
- ・採算性が厳しいということで、暗いことばかり言っているのは、未来を担う若い方達を巻き込むことは出来ないのでは。
- ・決して楽観的になってはいけませんが、明るい材料を出していかないと話が進まない。

大井委員

- ・L R Tの計画区間は、当社や関東自動車さんにとっては非常に基幹的な路線である。
- ・その辺りで悩ましい部分もあるので、今後この委員会で活発に議論したい。

金柿委員

- ・正直、L R Tについては、興味のある人と無い人との温度差が大きい。
- ・全く関係ない人がパンフレットを見ても「どうでもいい」という意見が圧倒的に多いと思う。
- ・反対者の意見は採算性の一点張りなので、そこだけではなくて、夢のあるまちづくり、そのためのL R Tという、子供達に夢を持たせるような試みも必要。

金子委員

- ・前回の「わかりやすい説明資料」の方が、今日のパンフレット案よりわかりやすい。

- ・誰に見てもらおうパンフレットなのかを想定して作業していると思うが、色々な方の意見を聞いて、県民市民が本当に見たいものを作って欲しい。

小林委員

- ・検討委員会での状況を、市民県民に対してどの様に情報を伝えていくかが重要。
- ・市民県民の中には、L R T沿線だけの話としてとらえている方が非常に多い。
- ・今後バス会社を含め具体的な検討を行っていく中で、例えば「今まで1日1便だった路線が5便になる」というような、市内の交通の利便性が全体的にこれだけ高まるということが言えるのでは。
- ・パンフレットは暗い話ばかりで明るさが全然見えない。

斎藤（公）委員

- ・商店街とか地域の人達は、「L R Tはまちづくりの手段にすぎない。L R Tがあることでまちがどう発展していくのか具体的に見せて欲しい」と言っている。
- ・昨年度整理した課題について、結論を出すなり見通しを立てていく、そういった意味でスケジュールを明らかにすることも大切。
- ・11月に社会実験があると聞いているが、商店街の真ん中でやるようなので、是非いい結果を出せるよう協力していきたい。

斉藤（俊）委員

- ・地元新聞の読者投稿をよく見ているが、がんばれとかもっと進めろという声の一つも無く、むしろ反対だ、採算性はどうかという声ばかり。
- ・検討委員会の内容等が市民県民に伝わっていないのではないかと。
- ・一番興味がある情報は採算性であり、県民の肩に全て赤字という形で掛かってくるのでは。
- ・パンフレット案にはバス、タクシーが全く見られない。
- ・片側には自家用車が駐車していて商店街の荷捌きが出来ない状況で無い。
- ・これは公共交通の切り捨てではないかとさえ感じる。
- ・バス事業者としては、これからの動向や自分たちの役割について、戦々恐々としている。

新屋委員

- ・国会ではまちづくり三法を議論してきたが、最終段階にきている。
- ・これは、都市計画やまちづくりの観点から大規模商業施設の郊外立地をコントロール出来るようにするもの。
- ・少子化や福祉の問題、効率的な公共投資のあり方などの観点から、都市をコンパクトにすること、それに併せてコンパクトなまちを支える交通はどうあるべきかの議論を進めている。
- ・まだまだ都市計画道路が足りないと言われているが、日本でも環状道路や放射幹線道路がきちんと整備された街が現れてきている。
- ・そのような街では、道路の使い方や交通のあり方を今後見直す段階に入っているのではないかと。
- ・宇都宮は都市内の道路がしっかり出来ているし、L R Tの検討も市民を巻き込んで盛んに行われているので、他の自治体の先駆けとしてモデルとなるような、都市あるいは都市交通のあり方を創っていければと思う。

中原委員

- ・L R Tは大変魅力的な乗り物であり、全国各地で検討されているが、どこも採算性がネガティブな材料になっている。
- ・今日の議論でも、課題解決のため様々なケーススタディやシミュレーションしていくと伺っているので、私共も出来る限り協力していきたい。
- ・宇都宮の交通事業者の方々との関係をどう解決していくか、皆が笑顔でいられるような解決策

が導き出されればよいと思う。

中村委員

- ・鉄道事業は、基盤整備に費用がかかり、運営は難しい。
- ・事業採算性は大きな問題であるが、幅広い経済効果を含めて検討していく中で、良い方法を見いだしていければと思うし、何か協力できればと思う。
- ・宇都宮駅の東西に停留場を造る計画もあるので、それを含めて意見を出して行きたい。

平田委員

- ・最近、地域の交通フォーラムに参加すると、高齢者は出来れば自分で運転したくないし、その家族も運転させたくないという声が非常に多く聞かれる。
- ・主婦層でも、学生の送迎が負担だという声が出ていることから、定性的には公共交通の必要性が裏付けられるが、これを何とか定量的に説明できないかと思っている。
- ・宇都宮のLRTについては、やはり社会の負担が大きく赤字だという新聞報道等が目立つ。
- ・そのため、ソーシャルコスト、ソーシャルベネフィットを明らかにして、コンパクトシティという政策目的に合致して、中心市街地の活性化に有効な社会資本である事を示していかないと、県民の賛成は得られないのではないかと。その辺りをWGで是非検討して頂きたい。

矢口委員

- ・最初の頃は、交通渋滞の緩和が主目的である様に感じられたので、高齢者の問題がおいて行かれたら大変と危惧していたが、報告書にはきちんと問題として挙げて頂き、大変感謝している。
- ・市民県民のLRTに関する認識は低いので、もう少し明るい話題を提供する等のPRの方法があれば、次世代の人たちに希望となるのでは。
- ・赤字ばかりを考えるのではなくて、進んで頂きたい。

山岡委員

- ・地元新聞の投書欄では、ほとんどの方がマイナス的な発言で、賛成は少ないと感じている。
- ・私は消費者団体の代表を務めており、会議等でLRTを話題にするが、県民の関心は本当に薄い。
- ・採算性のシミュレーション結果をきちんと示していくことも大事だが、それと平行して、もう少し幅広い県民層に啓発していく機会をして頂きたい。
- ・報告書にもあるが、市民団体を通してとか、県民の集会とか色々な所で啓発を行う必要性を感じている。

藤本委員長

- ・頂いた御意見は今後の委員会の運営の参考とさせて頂く。
- ・追加の意見は有りますか。無ければ、事務局から何かあるか。

事務局（栗山課長）

- ・次回委員会は、作業部会の検討成果を基に議論頂ければと思う。日程等は後日連絡する。
- ・何か御意見等有れば、事務局まで連絡頂きたい。

藤本委員長

- ・これにて議事は終了とする。

事務局（栗山課長）

- ・これをもって「平成18年度 第1回新交通システム導入課題検討委員会」を閉会する。

